

ペアワークによる音読指導の試み

伊東 麻里

兵庫県立有馬高等学校

1. はじめに : (授業や生徒の) 現状と課題

本校は人と自然科(農業を中心とした学科)1クラスと総合学科8クラスの計9クラスで1学年を構成している。勉強に対する意識は高いとはいえないところもあるが、生徒は明るく活発である。数年前と比較すると上級学校進学率が増加し、今では8割以上が進学を希望している。訳読式を中心とした授業展開が行われていることが多く、生徒の大半は文法を苦手としている。私が担当したクラスは、通常のリーディング(4単位)2クラス(各クラス約30名)と、やや難しい教科書を用い、また1単位多い5単位のアドバストクラス1クラス(25名)、そして人と自然科を習熟度別に1クラスを2展開したうちの29人であった。通常のリーディングクラスは、1つはある程度の同レベルの生徒が約半分集まっているクラス、もう1つは、英語を苦手とする生徒が多く集まったクラスであった。アドバストクラスは約80人を習熟度別3クラス編成をとり、私は中級クラスを担当した。このクラスの生徒たちは非常に意欲的で、勉強に対する姿勢も良い。

本校が総合学科ということもあり、殆どのクラスで50分を2回連続して授業を行うことがあり、連続授業に耐えうるだけの集中力を要する。前期の授業形式は、以下のとおりである。

- (1) 新出単語の確認
発音し、意味を言わせる(意味調べは宿題)
- (2) 本文と同じ英文を印刷し、そのプリントにスラッシュを入れさせて、モデルリーディングを行い、その後生徒たちがコーラスリーディングを行う
- (3) 一人一文読ませる
- (4) 予習ノートの内容確認(予習ノートは宿題)
- (5) 本文の詳しい説明(文法事項含む)

であった。しかし、連続授業で長時間椅子に座り続け、板書するだけの授業には限界があった。古典的な授業形態では生徒の興味関心を引き出すことや、まして意欲を駆り立てることは非常に困難であった。そこで古典的な授業展開を打破するため、この英語研究会に参加した。以前から音読指導には興味があったが、実践できずにいた。最近音読指導の重要性が指摘されており、私自身も授業に取り入れてみようと思い、試みることにした。

2. 課題の設定と研究計画（改善のためのアクションプラン）

音読指導を9月から取り入れてみた。以前からのコーラスリーディングに加え、ペアワークを中心とした音読方法を実践した。授業進捗の問題があったので、通常のリーディングクラス1つは前期と同じ展開（コーラスリーディングのみ）をし、もう一方は音読指導（ペアワーク含む）を取り入れた展開にした。アドバンストクラスにも音読をさせた。

音読による課題は、以下のとおりである

- (1) 声を出すということ
- (2) 発音やアクセントに気をつけさせること
- (3) 意味の区切りを意識させること
- (4) 内容を理解しながら読み進めること

などである。英文を読むことに慣れていない生徒たちが多く、コーラスリーディングの段階で声を出すことを重視し、その際間違えやすい発音やアクセントは強調して読ませた。英文にはスラッシュが入っているので、意味のまとまりを考えさせながら読んでいく指導もあわせて行った。

《各クラスの英文例》

* 通常のリーディングクラス

Lesson 9 Miyax and Her Wolves

PART

Miyax pushed back the hood of her sealskin parka and looked at the Arctic sun. It was yellow, and the sky yellow-green, the colors of six o'clock in the evening and the time when the wolves awoke. Quietly she crawled to the top of a mound of grass and moss. Lying on her stomach, she watched the pack of wolves she had met two sleeps ago.

Her hands trembled and her heartbeat quickened. She was frightened, not so much of the wolves, but because she was lost without food on the North Slope of Alaska. For hundreds of miles no roads crossed the slope, and the view in every direction was exactly the same. Somewhere on the barren slope was Miyax, and her life depended upon these wolves.. She had to tell the leader of the wolves that she was starving and ask him for food. This could be done she knew, for her father once had done so. Unfortunately she did not know how.

* アドバンストクラス

Toward Multiculturalism

PART

One of the factors that prevent complete communication is the gap between people from different cultural backgrounds. Every culture has its own view, its own unique way of looking at the world. Learning these different cultural perspectives is not only good way to discover more about ourselves. It is easy to forget that not everyone sees the world in the same way.

Misunderstanding arises not only between different countries but between different cultures within a country. Perhaps one of the best examples of this is the United States, where many cultures meet. African-Americans have a different view of life from European-Americans.

John Howard Griffin, in his 1960 non-fiction work, *Black Like Me*, writes about his experiences in trying to bridge the gulf that separates whites and blacks. Realizing that it was impossible to truly understand the black experience in America by simply reading and talking about it, he went one step further: through a series of treatments that included doses of skin-darkening drugs, he changed himself into a black man-or at least a white man with black skin. He traveled through the southern United States to get in touch with what it really meant to be an African-American. He was treated like a black, and finally, to his own surprise, found himself responding to white people's demands as if he were a black. The insults and the prejudice that were part of his "African-American" experience depressed him.

3. 授業実践：

授業展開は以下のとおりである

- (1) 新出単語の確認
発音し、意味を言わせる (意味調べは宿題)
- (2) 本文と同じ英文を印刷し、そのプリントにスラッシュを入れさせて、その後モデルリーディングを行い、それから生徒たちがコーラスリーディングを行う
(CD を聞かせた時もあったがレコーダーの調子が悪いときは使用せず)
- (3) 前後または左右の生徒同士で 1 回ずつ音読しあう
- (4) 再度ペアを変えて音読しあう
- (5) 一人ずつ音読 (ピリオドまでの 1 文)
- (6) 予習ノートで内容確認 (予習ノートは宿題)
- (7) 本文の詳しい説明 (文法事項含む)

前期の授業展開に (3) (4) を加えた

4. 授業の振り返りと考察

前期と後期に実施したアンケートは以下のような形式である

(ただし前期の項目はスピードと内容と板書のみである)

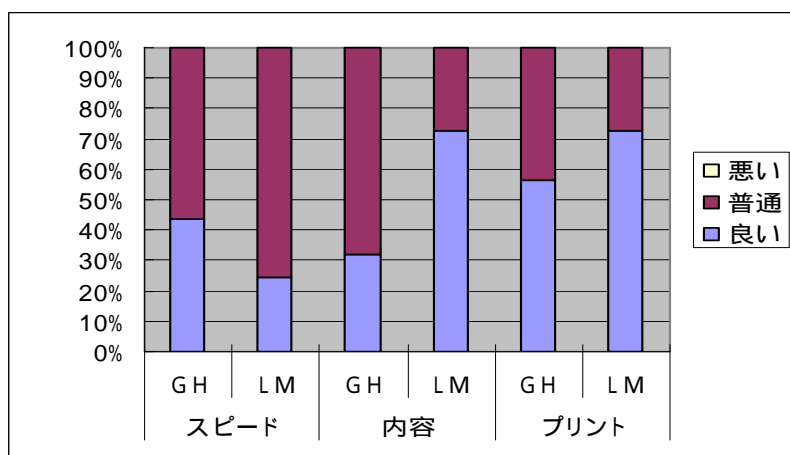
READING アンケート			
1. 授業について			
(1)スピード			
速い	普通	遅い	
(2)内容			
よく理解できる	まあまあ理解できる	理解できない	
(3)板書			
見やすい	普通	見にくい	
(4)プリント			
使いやすい	普通	使いづらい	
(5)声の大きさ			
大きい	普通	小さい	
(6)時間をとって英文を読む練習について			
必要あり	必要なし		
今後の参考のために読む練習についての意見があれば記入してください			
(7)その他			
もっとやりたいことがあれば記入してください			
2. 1年間の感想			

読む練習の項目については後期のみアンケートに加えた。各クラスのアンケート結果は以下の表でまとめた。

(選択の項目はすべて「良い」「普通」「悪い」の表現を統一した。)

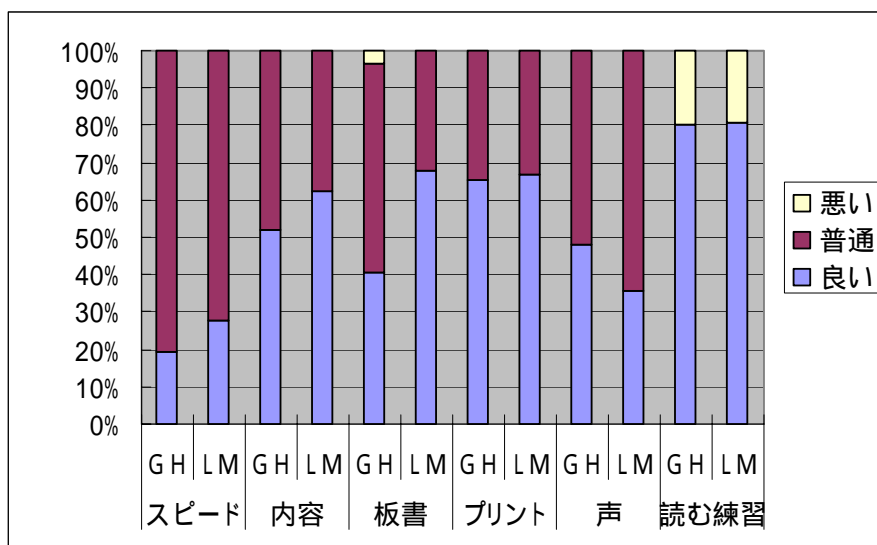
前期のまとめ

	スピード		内容		プリント	
	GH	LM	GH	LM	GH	LM
良い	14	7	10	21	18	21
普通	18	22	21	8	14	8
悪い	0	0	0	0	0	0



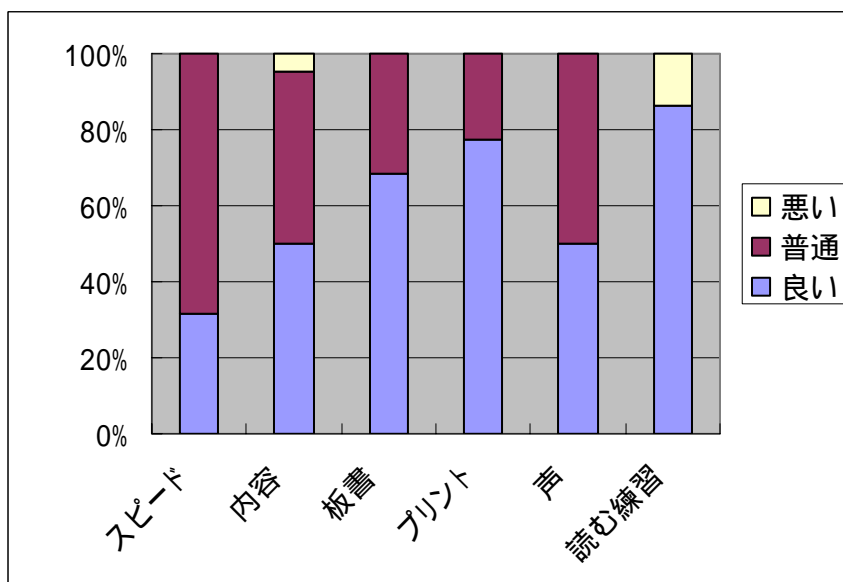
後期のまとめ

	スピード		内容		板書		プリント		声		読む練習	
	GH	LM	GH	LM	GH	LM	GH	LM	GH	LM	GH	LM
良い	5	5	13	15	11	19	17	18	13	10	8	21
普通	21	13	12	9	15	9	9	9	14	18	0	0
悪い	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	5



後期のまとめ (アドバンスト)

	スピード	内容	板書	プリント	声	読む練習
良い	7	11	15	17	11	19
普通	15	10	7	5	11	0
悪い	0	1	0	0	0	3



どのクラスでも前期よりは後期の方が「良い」と回答した生徒の割合が多かった。特に読む練習を「良い」と回答した生徒は各クラス80%にのぼり、記述式の回答からも分かるように評価は高かった。自分自身早口で話をするのが習慣なのだが、後期には生徒たちもスピードに慣れたのか、「普通」の割合が高くなった。

後期より実施した音読指導に対する生徒の反応はどうだったのか、非常に気になるところであった。当初の課題は、音読をしなかった前期と比較して、後期はどれほどの内容理解ができるようになるのか、また発音やアクセント、意味上で切れる位置を意識しながら読めるようになるのか、であった。本校の生徒は英語を苦手とするものが多く、また以前に音読をしてこなかったものが大半である。慣れるまでは時間を少し長めにとり、慣れると早く読むように時間制限をしたり、シャドーイングをしたり、ペアを変えたりするなど、単調にならないように工夫した。

約5ヶ月間の実践ではあったが、最初のころと比較すると、読めない単語を生徒同士がお互い質問しあったり、机間巡視をしているときに聞いてきたりするなど積極的に取り組む姿勢が見られるようになった。また、よく the の発音を母音の前であっても「ザ」と読んでいた生徒も、時間がたつにつれて気をつけて読むようになった。

一番初めに英文にスラッシュをいれるが、あまり意識することなくダラダラと読んでいた生徒もいたので、意味のまとまりも意識させながら練習させるようにした。

音読練習における各クラスの感想を以下のようにまとめた

《LM群30名》

- ・おもしろいし、ちょっとでも読めるようになっていいと思う
 - ・いいと思う
 - ・もう少し時間をかけてもいいと思う
 - ・もっといろんな人とやりたかった。男女するのはいやだ 聞いてなさそうなので
 - ・読む練習があると単語や熟語が覚えやすくなるからもっともっと読みたかった
 - ・発音の練習にもなったし楽しいからいいと思う 2回くらい読むのがちょうどよかった
 - ・今までのように友達と詠む練習をしあうのが楽しくてよかったと思う
 - ・読むほうが覚えやすくていいと思う
 - ・何回か読むうちにすらすら読めるようになるし、単語の発音の練習にもなってよかった
- ・どちらともいえない 本文を覚えることが出来るが、読むのに時間がかかりすぎて内容についていけない

《GH群30名》

このクラスでは音読指導はしなかったが次のような意見があった

- ・もっと時間をとって読む練習をするほうがよいと思う
- ・もっと読んだほうがよいと思う(特に単語) 中学校の時、単語を何十回も読よまされたのでたくさん覚えられた

《アドバンストクラス25名》

- ・読む練習は英語を学ぶ上で確実に有効な練習です。事実この練習の実施後、格段に英文

が読めるようになり、大学の過去問題でも英語の点数が急激に上昇しました。また練習効率からいっても書くだけと視覚からの情報ですが、実際に読むには五感をフル活用する必要があるので、記憶が脳に留まりやすく、また脳が活性化され回転も速くなります

- ・ 読んだ単語の発音が覚えられてるので、確実に力になると思います
- ・ 読む練習をすると発音やアクセント問題に強くなった気がする
- ・ 実際自分で読むことで、発音や読み方の確認ができてよかったです
- ・ 読む練習は続けたほうがいいと思います

・ 僕自身はどうかと思います

5. まとめと今後の課題

GH 群のクラスには読む練習を取り入れなかったのでアンケートにはその項目についての回答はしなくても良いと伝えていたが、数名のものが感想として読む練習はあったほうが良いと答えていた。LM群とアドバンスクラスには出来るだけたくさん読む機会を与えるようにした。その結果、生徒の感想文からも伺えるように、「読む練習をしたことで本文が以前より読めるようになった」「発音・アクセントにも強くなったような気がする」「実際自分で読むことで発音や読み方の確認が出来てよかった」など肯定的な意見が数多く見られた。後期になってからの取り組みではあったが生徒の反応は思ったより良かった。特に2時間連続の授業ではじっと椅子に座ってひたすら板書するだけの授業よりは周りの人と読む練習をすることで一種の気分転換にもなり、同時に生徒に発音・アクセントに興味を持たせる授業展開が出来たように感じた。最初は恥ずかしがって小さな声で読んでいた生徒も、慣れてくるとお互いに発音・アクセントが分からないところを聞きあったり、質問してきたりするようになったのは非常にいい傾向であった。

今後の課題としては、

- (1) 1年次からの音読指導を3年間のスパンで出来れば効果的である
- (2) 1年間やり通す
- (3) ICTの活用を取り入れる
- (4) バリエティに富んだ音読指導(シャド-イングなど)が出来るようにする
- (5) 重要文法項目の文を暗唱させる

などである。今後の指導に活かして行きたいと考える。